



No. 33
2011 Summer

山 松 舎
臨 南 寺

「心身脱落しました」

如浄禪師が方丈に戻ると、道元禪師も方丈に入り、焼香礼拝して感謝を捧げました。道元禪師の顔にただならぬ輝きを見た如浄禪師は、

「道元、なぜ焼香するのじゃ」

師の目を見つめて道元禪師、

「心身脱落しました」

それを聞いた如浄禪師も、

「心身脱落、脱落心身」

心身を捨てようとするその心まで捨てたのか、と道元禪師の悟りを喜びます。道元禪師は、

「これは一瞬のことかもしれない」

簡単に印可を与えないでください」

「いや簡単に印可を与えるのではない」

「それはどういうことでしょうか」

如浄禪師は心からの笑顔を見せて、

「脱落、脱落」

師から弟子へ、悟りの命が受け継がれた瞬間でした。この言葉を聞いた道元禪師は方丈を出ました。禪の心をつかんだ喜びが、体中にあふれていました。

道元禪師、二十五歳の夏のことです。

特集

道元禪師ものがたり

9

二十五歳で悟りを開いた

道元禪師



如浄禪師の厳しい坐禅

如浄禪師は、午前三時に僧堂で坐禅を始めます。弟子たちはさらに早く僧堂に入らなければなりません。夜は午後十一時まで坐禅します。如浄禪師は一日も休みません。道元禪師も寝る間を惜しんで坐禅に打ち込みました。

弟子のなかには居眠りする僧も出てきます。そんなとき、如浄禪師は弟子の眠気を覚ますため、拳だけでなく靴を脱いで打ち据えることもありました。

それでも僧たちが居眠りをやめないときは、鐘を打って僧たちを集め、諭すのです。

「考えてみるがよい。世間では帝から庶民まで、必死になって働いている。それなのに、お前たちは、思う存分行ができる身分を保証されながら、居眠りをむさぼっている。生死事大、無常迅速。人はいつ死ぬかわからない。寸暇を惜しんでひたすら坐禅するのだ」

如浄禪師の熱い思いは、道元禪師の

心に深く突き刺さるのです。

熟した実が落ちるように

そんなある日のことです。僧堂ではいつものように早朝から坐禅が行われていました。この日も居眠りをして、如浄禪師に叱られる僧がいました。

「坐禅は、心身脱落である。居眠りするくらいならやめてしまえ」

如浄禪師の雷のような大音声が僧堂にとどろきました。その瞬間、坐禅をしていた道元禪師に何かが起こりました。閉じ込めていた殻が割れ、「心身脱落」が光を放って浮かび上がってきました。

「そうか、これか」

道元禪師は自らの「新生」を体験したので。それこそが悟りでした。



臨南寺では、八月一日から お盆が始まります。



臨南寺では、八月一日から、皆様のお家で棚経をお勤めさせていただきます。

十日と十二日には、お墓経をお勤めさせていただきます。十日が午前十時から十二時まで、十二日が午後五時から午後九時までです。どちらかご都合のよい日にお越しください。

十二日は、弁財天万灯会を開催します。午後六時から九時まで、臨南寺の本堂前はろうそくの揺らめく灯りに包まれます。弁財天様への献灯をご用意していますので、願い事を書き入れ、本堂前にお供えいたしましょう。あらゆる願い事を聞き届けてくださる弁財天様に、皆様の願い事をご祈祷させていただきます。

万灯会は、お盆の迎え火でもあります。ご先祖や亡き人へのご供



八月十二日の夜、本堂前は幻想的な雰囲気になります。

養ともなります。

十六日には、盂蘭盆会施食会うらぼんえせじきえを修します。各家の精霊しんりょうをご回向させていただきますので、ぜひお参りください。ご都合のつかない方は、不参にてご回向をお受けしますので、お問い合わせください。

臨南寺 百景



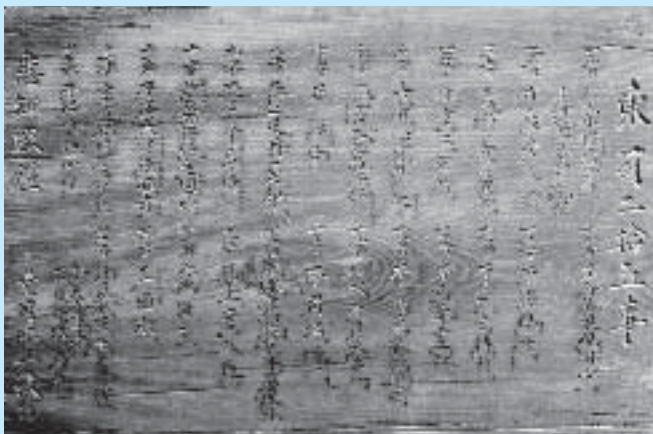
「東司二拾五事」 の訓牌

禅宗の寺では便所のことを「東司とうす」と言います。僧堂や浴室とともに「三黙道場」といわれます。三箇所とも声を出してはいけない場所です。

道元禅師は『正法眼蔵』をお書きになりましたが、その中に「清浄」という巻があります。そこでは、身を清浄に保つことが大切であり、その作法が仏道修行そのものであると説いています。

身を清めるとは「大小便を洗い、十指の爪を切ること」であり、それが国土を清めることになるということです。そして、便所での作法を事細かに定めています。

それを二十五の項目にまとめたの



トイレの入口に掛けられている「東司二拾五事」の訓牌

が、この「東司二拾五事」です。「入るときは三回指を鳴らすこと」「正しく中央をまたぐこと」「息を止め顔を赤くして、息んではならない」「聞き耳を立ててはいけない」「壁に落書きしてはならない」「水は節約すること」などがあります。

黒くて読みづらいのですが、三十二号で紹介したトイレの神様「烏枢沙摩明王うすまみょうおう」と二階にトイレの入口に掛けられていますので、一度ご覧ください。

文明の発展は、 人間の心を貧しくする

まず初めに、長年臨南寺暦(カレンダー)の書をお願いしていただきました本山總持寺住持第廿四世大道晃仙禪師様が、去る六月二十五日世寿九十五歳で遷化されましたことをご報告させていただきます。



臨南寺 住職
大澤正道

大道禪師様は本年四月十六日にご本山を退董され、出身地の北海道釧路において後進の指導に当たっておられるとお聞きしておりました。大道禪師様には、前任職の本葬儀・三回忌とお勤めいただき、また、公私共々大変お世話になつておりましたので、非常に残念でなりません。謹んで大寂定中、品位増崇をご祈念申し上げたいと存じます。

また、三月中旬から四月初旬頃まで、私の姉親子、親戚、友人など十名ほどが当寺に避難し、生活を共にしておりました。この間、多くの心ある皆様からご支援を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この経験の中で、避難中の皆を傷つけるような話も耳にしましたが、何より、これからの時代は、ますます、人と人との繋がりを大切に、思いやりを持つて生活することが必要であると感じました。

ある禅僧の方が、「文明(文化)の発展は、人間(の心)を貧しくする」と口癖のように言われているのを思い出し、肝に銘じて生活していきたいと思えます。

最後にになりましたが、被災された皆様には、二日も早い復興ができますようご祈念申し上げます。

お彼岸には 施食会にお参りを

九月二十六日には、午後一時から三時まで彼岸会施食会を本堂にて修します。各家にゆかりの深い諸精霊のご供養を行います。ご家族そろつてお参りなさいませんか。ご先祖様をしのび、ご家族の幸せに感謝いたします。

お写経もごさいます

九月二十日と二十三日の二日間、午前十時から午後三時まで、彼岸会写経会を開きます。一文字一文字心を込めてのお写経は、さまざまな功德をもたらします。先祖を供養し、故人の冥福を祈り、浄福を授かりましょう。皆様のお写経は、本山總持寺に納経させていただきます。



臨南寺行事予定 (八〜九月)

檀家様

○ お墓経

八月十日 午前十時〜十二時 受付は午前十二時半まで
八月十二日 午後五時〜九時 受付は午後八時半まで
*どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○ 弁財天万灯会 (本堂)

八月十二日 午後六時〜九時(献灯時間)
ご祈禱は一回目午後六時半〜二回目八時〜 受付は八時まで
あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をなさいませんか。ご先祖様をお迎えする迎え火にもなります。

○ 孟蘭盆会施食会 (本堂)

八月十六日 午前九時〜午後時 受付は十二時半まで
各家のご先祖様のご供養のため、法要をとりおこなう。ご回向させていただきます。

○ 秋季彼岸会施食会 (本堂)

九月二十六日 午後時〜三時 受付は二時半まで
お彼岸はご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間。仏壇に花やおはぎを供え、家族そろつてお墓参りして、ご先祖様に供養をささげましょう。

○ 彼岸会写経会

九月二十日・二十三日 午前十時〜午後三時
墓苑事務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

墓檀家様

○ お墓経

八月十日 午前十時〜十二時 受付は午前十二時半まで
八月十二日 午後六時〜九時 受付は午後八時半まで
*どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。



福島第一原発から避難して

皆様初めまして。四月より新しく臨南寺でお世話になっております、矢内大丘と申します。

私の出身地は福島県双葉郡川内村、長福寺です。現在事故が起き、問題になっている福島第二原子力発電所から二十数キロの距離にあります。川内村は現在警戒区域ならびに緊急時避難準備区域に指定されています。

三月十一日の東日本大震災のときは立つてられないほどの激しい揺れに襲われましたが、本堂などの建物の倒壊などは免れました。翌十二日には、隣町から親戚や知人の方も避難されてきましたので、その方々と一緒に「本当によかった、命があっただけありがたい」と、少しだけほっとしていたのです。しかし、その日の夕方、突然の避難指示が出されました。取るものも取りあえず急いで出発し、福島市から会津美里町と落ち着く



やないだいきゅう
矢内大丘

間もなく避難して、三月十六日に臨南寺の避難所にお世話になることができました。大阪に着いたときの安堵感は今になっても忘れられません。

こちらに避難させていただきましたから、本当に多くの方々にお世話になっております。私は、「多くの方に支えられて生きている、生かされている」ということを、改めて実感いたしました。仏教に「忘己利他」という言葉があります。これからは、お世話になった方々にこの気持ちをもって、精一杯努めさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

マトリ合同法要

祈りにあふれる一日

五月八日(日)午後二時から、がつしゅう園マトリの合同法要が営まれました。

今回の法話は、山形県の正常院副住職の成澤祐吾師です。東日本大震災の話から始まりました。

法話を聞いたあとマトリに移り、読経が続くなか、焼香をしていただきました。

お墓の継承が難しくなっても供養してもらえる、マトリへの入会が増えています。



墓苑をご利用の皆様へお願い

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトペーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーや紙オムツも絶対流さないでください。

編集後記

3月11日を境に、日本は大きく変わりました。東日本大震災は、福島第一原発の事故が重なって、発生から4ヶ月たつ今も先の見えない状況が続いています。そんななかで瓦礫を取り除き、一步一步前に向かって努力されている皆さんの姿には胸を打たれます。一日も早い復興をお祈りします。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半〜 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ〜っと」33号

平成23年7月

編集・発行：椋伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com